

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、以下に助成事業の概要を分かりやすく、簡潔に記入してください。

組織・グループ名	特定非営利活動法人 全国要約筆記問題研究会神奈川支部
活動区分 ※いずれか1つに○をつける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般助成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①当事者支え合い・当事者支援の促進</li> <li>②地域福祉ニーズ(課題)への対応</li> <li>③福祉の学び(参加型福祉教育)の推進</li> <li>④福祉コミュニティの構築]</li> </ul> </li> <li>● 協働事業助成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>[ 1. 福祉教育・ボランティア学習プログラム構築に係る先駆的な活動</li> <li>2. 地域住民、関係機関・団体の福祉意識の醸成を基盤とし、幅広い世代の社会参加推進に係る先駆的な活動 ]</li> </ul> </li> </ul>
助成事業名	「中途失聴・難聴者のこころのケア」についての講演会の開催

助成事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕※活動の様子が分かる画像を2枚程度挿入すること。

テーマ：「聞こえづらい悩みを乗り越えるヒント ～心療耳科の観点から～」

日時・場所：10月10日 13:30～15:30 横浜市西区社会福祉協議会施設「フクシア」と Zoom 配信

講師：杉浦彩子氏（豊田浄水こころのクリニック副院長で高齢者の聴覚を主な研究テーマとして心療耳科外来を担当、国立長寿医療研究センター非常勤医師）

受講者：県内全社協や関係施設など約150か所へのチラシ配布、横浜や川崎のHPへの掲載、「文字サポ検定修了者」へのメール配信など、広く募集を行いました。受講者は会場に11名、Zoomで53名（うち難聴者サークルでの共同視聴者9名）。難聴に悩む一般市民、県内の難聴者協会会員、要約筆記者（含全要研神奈川支部会員）、地域包括支援センターや聴覚障害者情報提供施設スタッフなどが参加されました。

内容：講義前半は、耳の構造と仕組み、聴力検査、耳の病気、加齢性難聴、難聴の治療について、コルチ器の動画や難聴治療の最前線の話なども交えての講義でした。

講義後半は、難聴者本人の声をもとにした難聴者の陥りやすい心理状態について、その解決としての会話以外のコミュニケーションの方法、さらに周りの人ができることを紹介されました。最後に難聴による孤独を乗り越えるヒントとして、臨床事例を紹介しながら、適応能力、目標の選択、補償、生きる意欲、老年的超越をあげられました。

☆はじめのハイブリッド形式での講演会で、運営側の不手際により、後半部分について Zoom 配信がうまくできませんでした。講師のご厚意により Zoom 受講者に後半部分のプレゼンテーション資料と説明文を郵送いたしました。

☆テーマ設定や講義への評価は高く、中途失聴・難聴者の方からは「参考になる有意義な内容で前向きな気持ちになれた」、「勇気もらった、今後も難聴者として頑張って生きていきたい」、「新知識を得られた」との声が、一方、支援側の方からも「臨床医としてのご講義は役立つ知恵や考え方が多く、これまで以上に中途失聴・難聴者の気持ちを理解して接したい」などの感想が寄せられました。



口形が読めるようマスクを外し、アクリルボード越しに講演される杉浦先生



Zoom 上の講師とプレゼンおよび要約筆記画面